

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、_ : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	単価の動き	・原油価格の高騰や長雨などの影響から、鮮魚や冷凍物はおしなべて仕入価格が上昇しているが、客には販売価格の値上げを容認してもらっている。土用の丑のうなぎなどは前年の2割ほど価格が上がったが、売上は好調であった。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏商材の帽子、サングラス、サンダル、バッグ、晴雨兼用パラソルなどの売上が前年の5割増となった。また、長梅雨の天候にもかかわらず、主婦層ではまとめ買いの消費行動が活性化している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月初めからクリアランスを開始したが、催事のDMや呼び掛けなどにより、婦人夏物衣料の売上は前年に比べ約2割増加した。後半はホテル特別招待会により冬物を先取りする形で毛皮や時計などの高額商品を販売し、かなりの成果があった。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・毎年7月はバーゲン期であるが、今年の夏物の売行きは長雨にもかかわらず、前年に比べかなり良かった。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・下旬の来客数はさっぱりであったが、それまでは団体の予約や貸切りが入り、好調に推移した。売上は前年比で約1割増加した。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、レストラン、宴会のいずれの部門も、平均客単価は減少しているものの、利用客数の増加でカバーし、増収の見込みである。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来客数はボーナス時期と重なり増加し、携帯電話の販売台数は高額品、低額品とも増加した。
		美容室（経営者）	単価の動き	・毎年7月に行っている割引キャンペーンでは、例年より割引額を縮小したが、来客数にほとんど影響がなかった。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月1日のセール初日と2日目はかなりの人通りで各店とも売上を伸ばしたが、後半は鈍化した。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・雨のため来客数は減少しているが、売上は横ばいで推移している。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、一品単価の大幅低下から客単価も落ちている。競争激化による目玉商品の乱売が原因であるが、客は広告などを見ながら上手に買い回りをしている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・大雨の影響や6月のたばこの仮需の反動などで、厳しい状況になると予想していたが、テレビ番組とタイアップした商品が売れたため、売上は前月比、前年比でわずかながら上回った。しかし、売れているのは話題性のある商品だけで、それ以外は変わっていない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・商店街の通行量に大きな変化はないが、6月後半にセールを前倒して行った反動もあり、売上は減少した。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・中旬の暑さで4～5日間はエアコンが爆発的に売れたが、月全体では梅雨明けの遅れから期待以上に伸びず、売上は前年比で微増にとどまった。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・新車の販売台数では前年を超えていないが、車検等のサービス部門の健闘で収益をカバーしている。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・高額商品の受注件数は横ばいで推移している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・開店10周年のイベントを行った店は前年比160%の売上となった。イベントでは特に安売りをしなかったが、通常の1.5倍のチラシを新聞折り込みしたことが効いた。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ボーナス時期であるが、3か月前と比べて販売量が減少傾向にある。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・ケーブルテレビ契約の販促キャンペーンの締切りを6月末に設定した反動もあって、今月の申込状況は従来の勢いを失っている。	
	その他レジャー施設（職員）	単価の動き	・当施設の最盛期を迎えたが、利用単価や来客数の動きがまだ鈍い。	

	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・来月から住宅ローン金利が上がると予想されるが、小幅な上昇と安易に考えている人が多いため、焦りがあまり見られない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・金利先高感から、客は建築に若干気持ちは傾けるようになってきた。少し時間を掛けて折衝すれば、話に乗ってくれ、受注に結び付く。
	住宅販売会社 (総務担当)	お客様の様子	・金利上昇による駆け込みは一部見られるものの、全体的に動きは鈍い。
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・7月後半からの雨の影響で、夏物バーゲンの売上が昨年に比べ減少している。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・大手百貨店の撤退で、来街者数が更に減少している。
	スーパー(店 長)	販売量の動き	・大手スーパーが6月末に出店したため、生鮮食品、特に水産部門の売上では健闘したものの、ナショナルブランドのグロッサリー関係は落ち込んだ。
	スーパー(店 長)	販売量の動き	・天候不順のため、季節商品の販売量が前年に比べ悪化している。
	コンビニ(店 長)	単価の動き	・来客数は変わらないが、長雨の影響でジュースなどの飲料が伸びず、客単価で苦戦している。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・1～6月の前半戦は前年比20%増で折り返したが、7月に入って状況は激変した。大雨などの天候不順もあるが、車関係ではガソリン価格の高騰に加え、今後更に値上がり傾向が続くと懸念から、ブレーキがかかった。特に高額車への影響が大きい。
	住関連専門店 (店長)	単価の動き	・新築、増改築、プライダル等のまとめ買いの単価が低下している。また、値引きの要請も多くなっている。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・売上は祭日の前まで前年を若干下回る程度で推移していたが、大雨と長引く梅雨の影響により月全体では不調に終わった。生鮮商品の高騰もあり、経費増となっている。
	旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・販売量は前年に比べ20%減少した。他社の低価格商品が急速に浸透している。
	旅行代理店(従 業員)	単価の動き	・天候不順の影響が、夏商戦の出だしが遅い。出発日が近い客ほど「安・近・短」となり、旅行単価が下落している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・雨の日が多かったことから忙しい時間帯もあったが、観光客や夜の飲食街の人出が少なかったため、売上は伸びなかった。
	パチンコ店(店 員)	単価の動き	・売上は前年に比べ落ち込んでいる。また競合店の来客数も落ち込んでいる。
悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・道路交通法改正に始まり、テポドン騒動、大雨、原油高騰と、悪いニュースばかりが続いている。人出もめっきり少なく、商店街は壊滅的打撃を受けている。
	百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・売上、来客数とも減少している。内容的には雨の影響もあって、夏物衣料の売上減少が大きい。
企業 動向 関連	良く なっている	一般機械器具製 造業(経営者)	・取引先の回収状況は年初以降順調で、現金回収率、回収期間とも良好である。また、客先の稼働状態はフル操業で仕事があふれている。
	やや良く なっている	通信業(営業担 当) 司法書士	・電話回線を光化することにより経費削減の効果を期待し、設備の更改を検討する客が多くなっている。 ・一部ではあるが、不動産取引価格が上昇しているところがある。
変わらない	繊維工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・秋冬物の生産シーズンに入っているが、原材料高のなかで稼働率は前年より高い。
	プラスチック製 品製造業(企画 担当)	受注量や販売量 の動き	・商品の動きはほとんど変わらないが、原材料の値上げが7月中に確実に行われる。
	精密機械器具製 造業(経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・地場産地内の受注量は、依然としてメーカー間の二極化が進んでいるものの、全体的には現状維持の状態である。
	建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・元請工事、下請工事ともに現場は忙しく、休業の土曜日も返上して対応した。しかし、下請工事の採算は悪く、忙しい割には利益が確保できない。
	建設業(総務担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・民間、官庁とも、入札見積価格が適正な水準を大幅に下回っている。半面、職人不足や材料高などからコストアップも重なり、依然として過当競争が続いている。

		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・売上などは前年並みに推移している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・小売業の売上は横ばいで推移し、建設業では競争激化により採算性が悪化している。
	やや悪くなっている	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今までは受注単価だけが低下していたが、今月は受注量まで前年を割ってきた。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事関係業界では、仕事量はある程度確保できているが、長梅雨や天候不順で仕事の進捗状況が著しく悪化している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・業種間にばらつきはあるものの、求人数は製造業を中心に前年に比べ増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・登録者数が減っているうえ、スキルが落ちている。英語を始め専門性の高いレベルに到達する人材が足りない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月と同様に大きな動きはないが、企業からはスキルの高い人材の求人依頼が目につく。また、都会からのUターン組への関心も高く、求人もかなりある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年比93%程度である。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介、人材派遣とも需要はあるが、登録者数の減少に加え、アンマッチが続いている。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・アルバイト・パート求人は季節的要因で増加しているが、例年増える傾向にある7月の正社員募集が、今年は逆に鈍化している。
	悪くなっている	-	-	-